1966
7 月 号
No. 152
編集兼発行
鮫川村役場
鮫川村公民館
塙町 佐藤印刷所

広報 さめがわ

7月の人口と世帯
人口 7.394(－22)
男 3.672(－13)
女 3.722(－ 9)
世帯数 1234(＋3)

さらば思い出の公会堂(公民館)よ

＝解体にあたりなつかしの声＝

前号でお願いしました公会堂の資料収集につきまして次の方々より御協力を頂きました。紙上より厚く御礼申し上げるとともに近日中に感謝の記念品を贈らせて頂きます。

感想文の招介は紙面の都合で次号にまわる分もございますので、悪しからず御諒承下さい。

・感想文提供者：小松幸一、矢内嘉続、国島義広、蛭田京之助、阿久津辰弥、中井恒雄　・写真提供者…小松幸一、矢内嘉続　・建築記念盃提供者…矢内嘉続

本号は「公会堂特集号」として貴重な写真を掲載しましたので六頁に増頁しました。

思い出

元村長　阿久津　辰弥

鮫川村公会堂（現公民館）の生立ちを、記憶をたどつて書いてみることにしました。この公会堂は大正初期の建築で、村の杉山捨吉氏の請負で当時の村長須藤千代之助翁が非常に苦心をして村内より用材をあつめその時代には、珍しい合掌造りで天井板がなく中間に柱が一本もないという建築物で、上棟式のときには村内の人々が見物に集つて祝いの投げもちを大人もこども も競つて拾い、女の人でも前掛けにいつぱい拾つて、喜んだというエピソードがある。

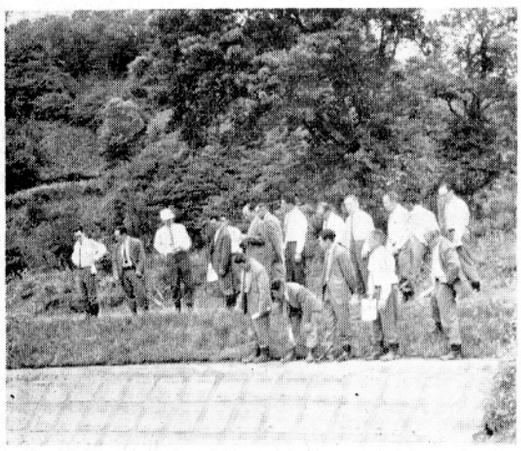
この公会堂の広さは百五坪で、当時郡内は勿論、県下に誇る大集会所であつて、今でも記憶にのこつていることは三尺に六尺の「公和会楽」（円了書）の大額面もあまり大きくは見えなかつた。大広間は如何に広く、大額面も釣合のとれていたものと思われる。

それ以来、この公会堂は村内の数々の行事や集会に利用され、村民に親しまれ、楽しきも悲しきも同甘共苦して五十余年を過したのである。ことに活発であつたのは大正から昭和の初期で選挙ごとの演説会や青年団の雄弁大会で、大いに天下国家を論じ、大いに若き血を湧し満場を熱叫の渦の中にまきこみ、年々意気軒昂たるものがあつた。しかしさすがの大殿堂も年と共に時の流れに順応し、ある時は中学校や高校の仮校舎として使われたりして、いろいろと姿をやつし、使用も数多くなるにつれ老朽はなはだしく、戦後公民館に移り変るに際し一大改築をなし現在の姿となつた。その後もしばしば増改築がなされたが、公民館として大改築を施しての、第一回の催しの鮫川村文化祭の盛況は大変なもので、「のど自慢大会」はあの広い公民館に溢れんばかりの人の波でその盛況ぶりは、忘れ得ない思い出のひとつである。

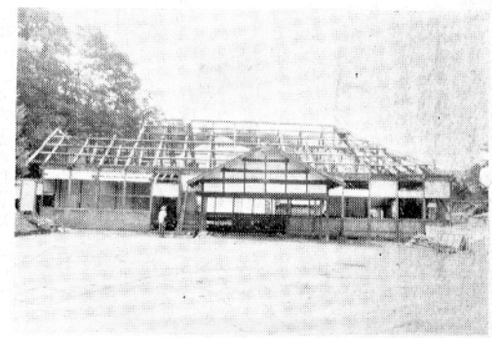
鮫川村のような不便な山村には是非こうした公民館が必要で、思い出多い公会堂であるが、このたび村当局と議会並に社会教育に携わる皆様方の一大決心のもとに、近代的公民館として衣替えできることは又非常に楽しみなことである。



今年は各種団体の村内視察が盛んに行われています。村議会でも２日がかりで各種建設事業を視察し、今後の対策などを検討しました。



今まで手うすだつた河川の防災工事を西山の辺栗地内で着工しました。鮫川の増水にもビクともしない堤防が一部でき上りました。



大正に年号が変つた改元紀念として計画され同三年に完成した公会堂は、当時としては珍しい中柱なしの合掌作りでした。



旧公民館跡に建てられる近代的な新公民館の敷地地鎮祭は、小雨降る７月17日に現地で行なわれました。写真は鍬入れをする石田村長。

過ぎたるもの二つ

富田　国島　義広

知る人ぞ知る因果は巡るものなり。

大正の初め頃であつたと思う。時の村長須藤千代之助氏（現助役英一氏の祖父）が県下に魁けて、我が鮫川村に公会堂として宏大なる公民館を建立された事は、当時の村民として遍く知るところであるが、他に見られない稀なる建造物であつたので、其の当時の話題として、県南に過ぎたるものが鮫川に二つある。一つは建物で、一つは人物であると言われた。

建物とはすなわち公会堂で人とは当時の鮫川村長の須藤千代之助氏であつた。

他町村にもこれを模して造られたが、郡制当時のことで時の東白川郡長であつた須藤信立氏が、郡下の各町村の青年千名を鮫川の山奥に兎狩と銘打つて、公会堂の庭に召集し、自ら指揮の任に当り、あたかも其の昔、源頼朝公の富士の巻狩を髣髴されるものがあつた事も、追憶を新たにするものがある。

其の目的こそは、兎狩にあらずして鮫川公会堂の紹介であつたという。

（二頁につづく）

（一頁より）

この由緒深い建物が、時を経ること半世紀、村民修練の道場、集会の場として一時は青年学校、中学校等の校舎として利用されたこともあつたが、この間社会教育、文化の殿堂として村発展の為ひ益された事は言を待たない。

原因は結果を産むの例い、昔須藤村長の良い因をなした公会堂は、今は又良い果となりて、新に村公民館として再びよみがえることとなつたのもまた偶然ではない、将来ともに村発展のため利用されんことを望んで止まない。

因に須藤村長当時に、紅顔の青年として、鮫川村に迎えられた石田卯子八氏は、現村長として、先代須藤村長の意志をつぎ、公民館改築の任に当ることは、又因果は巡ると言うべきである。終りに公民館長大楽勝男氏をはじめ、公民館改築の衝にあたる方々に苦労を感謝し、往日を追想し過去の名残りを惜みて筆をおく。

鮫川村公会堂の建設 思い出をたどりて

赤坂中野　矢内吟月

明治四十五年七月三十日明治天皇崩御されて年号は大正と改元された。鮫川村に於ては改元記念事業として鮫川村公会堂を建設することに決定し、当時の村長は故須藤千代之助氏であつた。先づ敷地選定にあたり現在の敷地と決定し、土地は元故金沢福次郎氏所有の田であつたのを買収して整地に着手した。村民有志の奉仕によつて敷地が整備完了し、早速建築にかゝり当地出身の大工棟梁であつた故杉山捨舎吉氏が請負契約をなし建築に着手した。間口十五間奥行七間、建坪百五坪という豪壮な建物である。村民集会等に利用する大広間は中柱なしの合掌作りであつた外に畳二十余畳敷の日本間も併設された。之に使用した用材の大部分は富田字前沼故青戸是太郎氏その他有志の現物寄贈であつた。建物は殆んど完成して数日内に村当局に引渡す準備中のところ突然豪雨に見舞われ大洪水となり、公会堂の敷地は盛土であつたため基礎工事が完全でなかつたので、西側の縁ト敷地の盛土が洪水のために洗われて押し流された。さすがの公会堂も半壊して傾いた、燃し幸にして合掌作りとゆう当時としては珍しい構造であつたため全倒壊をまぬかれた。だが災難なのは杉山請負師で引渡前であつたため責任をもつて再修築し、立派に完成して無事引渡を完了したが、杉山氏は之がために大損害をこうむり家屋田畑等の私財を売却し、完成竣工されたことを当時の人たちに秘話美談として伝いられている。

「鮫川村公会堂」と書かれて正面玄関上に掲げられた看板は当時の東白川郡長須藤信立氏の揮毫であつた。

当時本県下で公会堂のあつたのは福島市と田村郡大越村の二ヶ所で県南では鮫川村が始めてであり県下町村の羨望の的として話題にのぼつていた。

太陽と米つくり

村長　石田卯子八

太陽の歩み（36）

太陽黒点の極少限の年を中心とした数年間は、静かな太陽の年で、東北の冷害と重大な関係があることはよく知られています。

昨年は春からの天候が不順で、天明以来の凶作かという声もあり、大変心配させられました。

ところが今年は、気象庁の発表も冷害を思わせる要素はなかつたし、四月、五月の気象状態は人々に安心感を与え、田植も順調に終ることができました。

しかし六月、七月の気温は低く、雨天が続き、梅雨期には稀らしい台風の襲来があつたりして、はつきり不順天候といえる状態になりました。

それにシベリア上空から流れこむつめたい気流が、時々北日本を襲うので、好ましくない予感が、肌にしみて感じられる日がいく度かありました。

それでも本県では、七月十八日頃から夏の気圧配置にかわつた模様で、これからは土用の照りこみが期待されるかと思います。

七月中旬、国や県関係では不順天候対策が叫ばれ、例によつて「対策本部」の看板が見られるようになりました。

これは一面結構なことではありますが、頻発する農業災害に対して、この「対策本部」がどれだけのご利役をもたらすかは、これまでの経験でおわかりのとおりです。

殊に稲作については、まだまだ「天候でつくる」要因が多く、技術的な対策にも限度があります。

大雑ぱにいえば、天候といつても主に気温ですが――気温の稲作に及ぼす影響度を、四五月の苗代期、六七月の分けつ伸長期、八九月の出穂成熟期、十月の収穫期に分けて考えると、影響度の最も高いのは、出穂開花から成熟期にかけてであつて、苗代期、分けつ期は普通いわれている程度よりは少いものです。

花器形成の時点や出穂開花期の低温は決定的な影響を収量に与えることがあります。

この時期の被害対策に、水管理や追肥をひかえること位の技術水準では、まことに心細いことですが、これが現実ではないかと思います。

しかし放任していたのでは被害を一層激甚化するだけですから、灌漑水をなるべく温めて湛水する。病虫害の防除を十分に行う。N質肥料の追肥を避けるなどの作業は、十分に実行したいものです。

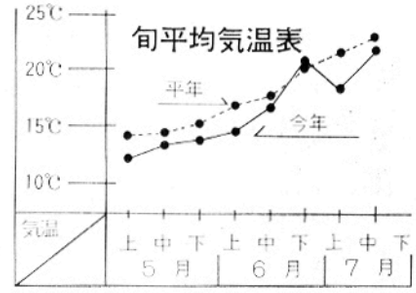
この際切に祈りたいことは七月下旬の穂孕期から八月の出穂開花、成熟期にかけて、太陽活動が活発で、気温が平均二四、五度以上で推移してくれることです。そして「天候で作る」米つくりから「技術で作る」米つくりに前進するための技術水準が、飛躍的に上昇する努力も期待したいし、恒久対策としての農政上の施策も強化しなければならないと思います。（七・二〇）

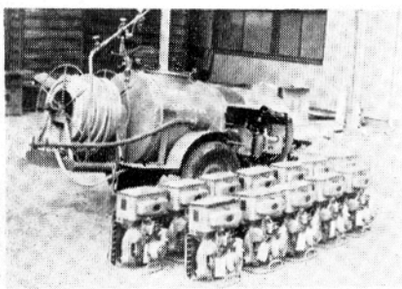
いもち病に注意

今年の田植は順調に経過しましたが、その後時々極低温が現れ、五月より七月中旬までの旬平均気温を平年と比べると次表の通りで、いずれも低く経過しております。

このため稲の生育は遅れ軟弱になつております。今後の管理には充分注意して下さい。特にいもち病の多発が予想されますので、連合会毎の共同防除を完全に実施し被害を未然に防止して下さい。穂いもちは発生してからでは間に合いませんので予防防除が大切です。出穂直前と穂揃期の二回は必ず薬剤散布をして下さい。共同防除用として村、農協、共済が経費負担をし、動力散粉機一二台を購入し、又大型噴霧機二台を設置し、適期防除に備え、葉いもちの共同防除より使用しております。

産業課





（写真は大型噴霧機と動力散粉機）

御礼

このたび鮫川村消防団が県知事より消防施設優秀につき表彰の栄に浴しました。

不肖私も日本消防協会、県知事より、それぞれ受賞いたしました。これひとえに村長団員各位、村民の皆様の絶大なる御支援と御高配の賜と深く感謝しています。

私たちは微力でありますが使命の重大さを認識し、今後とも懸命に努力する所存ですので、御指導と御支援を心から念願申し上げ簡単ですが紙上から御礼を申し上げます。

消防団長　円井彦兵衛



農業委員かわる

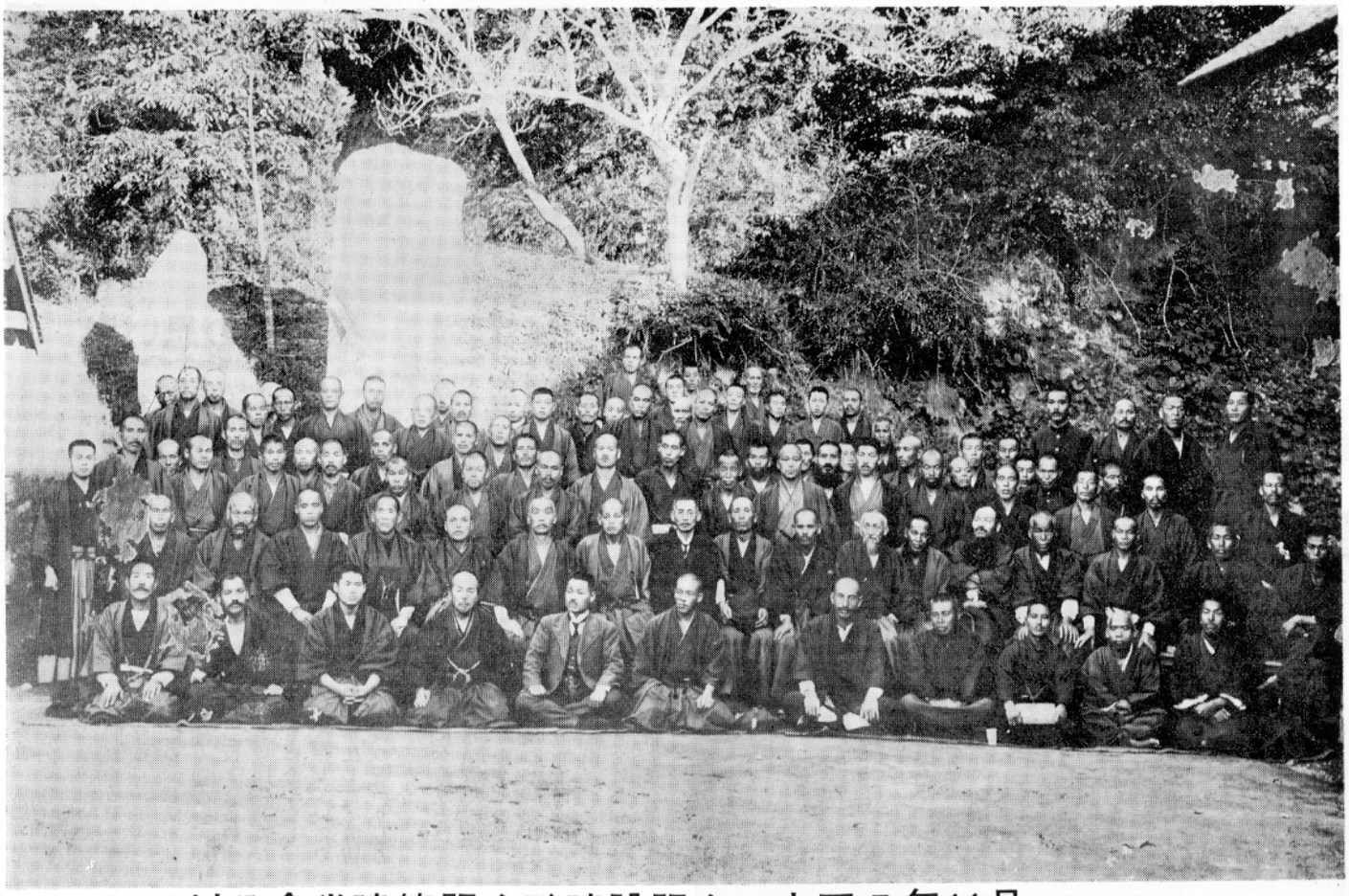
任期満了による改選当選者。

佐藤千代次、関根儀光、堀川信政、関根英男、青戸敏哉、矢吹啓松、芳賀登、斉藤一男、水野芳光、白坂清美、遠藤忠助、鈴木公義

推せんによる委員。

議会＝中川西金之助、土手内万吉、鷺野谷己之二

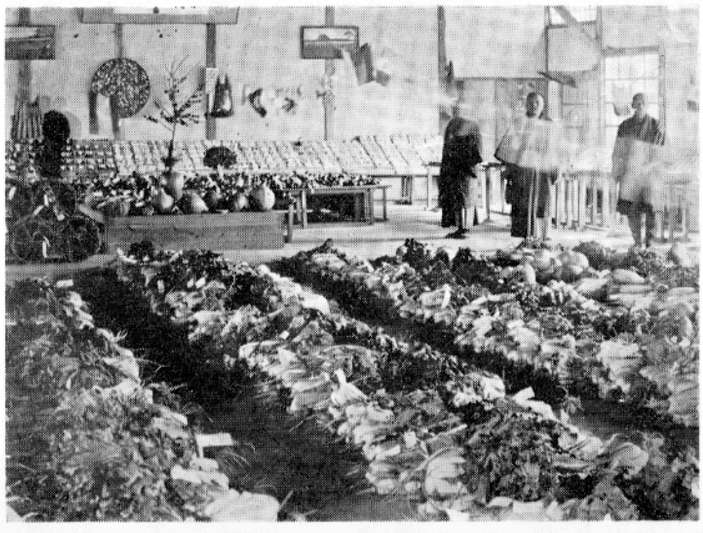
産業団体＝鈴木喜一、須藤栄泰



鮫川村公会堂建築記念碑建設記念　大正７年11月（矢内嘉続氏提供）



農産物品評会　（撮影年月不明）
右側（阿久津国太郎）　中央（須藤村長）
左側（芳賀助役と思われる）　小松幸一氏提供



改元記念

公会堂之記

福島県知事正五位勲四等太田政弘篆額　福島県東白川郡長従七位原田一忠撰

鮫川村は赤坂中野、赤坂西野、赤坂東野、石井草、西山、富田、渡瀬の七大字より成り、戸数八百三十、人口五千二百九十六を有し県下有数の大村たり、而して其の位置たる山間部に属するを以て区域広闊人家所々に散在し、村役場所在地より各大字の中央地点に至るまで近きは約一里遠きは三里余に及ぶ、故にこう村の調熟を図り庶政の円滑を期するに困難なる蓋し想見するに難からざるなり

明治二十二年八月町村制の実施せらるるや忽ち地方的感情の衝突を生じ村内は東部西部の二派に分れ事毎に相軋轢し延て明治二十五年十月に及べり、為に行政並に財政上に尠からざる影響を来したるのみならず殆んど収拾すべからざるの失態を続出したるが故に世人呼んで難治の村と称せり、然るに時運の進転は此等げき墻を許さず当時の村当局者及有志者等、先つ其の不得策たるを自覚し従来の態度を改めしかば村民亦之に化導せられ漸次融和の曙光を望むを得るに至れり、語に乱極まつて治を生ずとは夫れ之を謂ふか爾来膺選したる村当局者は鋭意庶政の整然と村治の平和とに努めたる結果村民能く之に信頼すると共に、和衷勤労の美風を助長し各種団体の活動亦見るべきものあり宣なる哉、年を遂ふて教育産業納税等改善進歩の実挙り範を他に示すの隆運に向ひたるは洵に邦家の為慶賀すべきなり

今や改元を永久に記念せんが為村民の義しに依り村内山柴水明の地を卜し間口十五間奥行七間の公会堂を建設し公衆の会同に便せんとす其の規模宏大にして構造亦賢実なり、抑々此の種の企画たる県下各町村に未だ其の類例を見ざる所にして真に壮挙と謂ふべきなり、望むらくは村民諸子深く日進の大勝に鑑み益々相しう睦して各其の産を治め以て大正昭代の民たるに愧ぢざんことを敢て所思を披瀝して之が記と為す

大正元年七月三十日

福島県東白川郡書記　井上光男書



写真　小松氏提供



公会堂の思い出

赤坂中野　小松幸一

鮫川村公会堂は、公会堂の記にある如く、「公衆の会同に便せんとす」を主命として大正元年七月、三十日、明治から大正への改元を記念して誕生したのである。

当年五十四才よく風雪に堪いて、村のため民衆のためにつくされ、現在の鮫川村の礎を造つてくれたのであると確信して、その功労に対してご苦労様であつたと厚くお礼を申し上げる。思いば七月三十日の誕生日を待たずして、この世から去るとは肉身に別るゝの思いに感無量であるが、主命を果し功成り名遂げた今日、世に「発展的解消」という言葉があるやがて鉄筋コンクリート二階建に転生して再び会う日を楽しみに待つておる。

思い起せばこの公会堂を計画建設した母体の助産婦、即ち須藤村長ら三役と、各村会議員各区長、各種団体長及び工事請負者ともに今や亡し、関係者として生存しているのは整地作業に奉仕した、消防団員と青年会員の若かりし方々だろう。

五十四年前に公会堂とは、福島と大越と我が鮫川村と県下で三つしかなかつたのだ。間口十五間、奥行七間で柱が一本もない大広間であるからマサカ大したものだ、よく出来たものだとタマゲタものだつた。今は合併して一番少さい村だが当時は公会堂と共に県下でも指折りの大村で、大いに自慢したものであつた。

玄関は間口三間、奥行二間で馬鹿に大きいのでこんな大きいのを何にするのだろうといわれたものだが、やがて自動車を入れるのだと須藤村長は語つていたが、今車が四台入つてユルユル、車庫も停車場もいらない、流石に先見の明ありだつたと今更ながら故人の偉大さを思いしのぶのである。

建設の方法は記憶は薄れているが、村民の寄付と村費、村民の奉仕作業であつたと思う。裏山の切りくずし作業は今だに目に残つている。工事請負金が何程であつたかが忘れてしまつたのは残念でならない。建物の土台全部が大字富田字湯川組合一同の寄付であつたと覚えている。

工事請負者は当村故杉山捨吉翁であつて、当時東白川郡内一の大工棟梁であつたという。工事は進行して落成引渡しが明日に迫つた前日大暴風雨大洪水となり広畑、新宿、道少出は一面の水となり、大被害を受けたのであつた。公会堂の敷地は埋めたて地のためその大半が流失して建物は陥没してしまつたが、技術とは恐しいもので、建物はそのまゝの姿で曲つたまゝ倒れないであつた。これを見た村民はさすが杉山棟梁の技術をいらいものだとほめたゝいられたが、大損害を背負つてしまつたのだ。然し杉山は男であると、先祖伝来の家屋敷田畑を売払つて、一身一家を犠牲にして工事を復旧完成して引渡したのであつた。

（次号につづく）





なつかしき公会堂

赤坂東野　蛭田京之助

八千鮫川村民の一員として永久に思い出深き建物はまづ鮫川村公会堂であります。

山村鮫川村民の和衷協同勤労の美風を助長し各種団体の活動見るべきものあり当時の福島県知事大田政弘氏のてん額東白川郡長原田一忠殿の撰、井上光男殿の公会堂の記を碑に刻す。当時の村長須藤千代之助氏は、献身的に事業完遂に尽瘁され村民も一丸となつて呼応し実現の運びに至りしものなり、以来星霜流れて玆に五十有余年の久しきに亘り風雪に耐え乍ら鮫川村進展のため偉大なる使命と役割を果された。私は村民の一員として誠に感激無量で胸の高鳴るものあります。堂内には文学博士井上円了先生の楽群、森嘉種先生の公和会楽の書、憲政の神河野磐洲翁の尊影が掲げられ、県会議員鮫川村長須藤千代之助氏の写真も掲げられた。農産物品評会が年中行事として開かれ、終戦とともにこの品評会は文化祭に発展し年一回の文化行事はここを中心の会場として現在に至つている。

更に在りし日の郷軍分会の簡閲点呼場として或は鮫川青年婦人会の講習講話会の殿堂として、社会教養面、村民娯楽の会場、各種団体の集会場として活用されました。鮫川村民として永久に忘却する事の出来ない感銘深き事は鮫川村が昭和十二年十月全国経済更生特別優良町村の一に選ばれ、晴れの表彰伝達式を行われたことです。時の農林大臣山崎達之輔氏、富民協会理事長岡実氏、県内政部長、農林技師等臨席の上厳粛に挙行されたことで、全村民の感激は最高潮に達し慇々自奮自励挙村一致の体制にて、村の振興発展に邁進する決意を新にしました。この名誉に輝く鮫川村の声価を高めた功労者こそ時の農業技術員で現村長石田卯子八氏その人です。氏の業績は鮫川村政史上不滅の金字塔であると私は堅く確信します。

戦時中は鮫川青年学校舎としても活用され大戦従軍戦病死者の慰霊祭村葬会場にも供せられました。

なつかしき思い出の公会堂、村民と共に風雪五十有余年の才月が流れここにお別れの時は来た。そして近代的鉄筋構造による鮫川村にふさわしい新公民館建設の案が可決されたと聞く。吾々村民として満腔の敬意を表し心から其の実現を希う次第であります。

さらばなつかしき公会堂よ村民の賞賛とともに生れかわつて、弥栄えゆく鮫川村の進展向上と郷土振興のため、現代にふさわしい門出を一日千秋の感をもつて待望する次第です。

議会だより

第七回議会定例会

去る六月二十五日第七回議会定例会が招集されました。

付議事件は次のとおりです。

(1)会期（一日間）

(2)議案第二十九号　鮫川村国民健康保険税条例の一部を改正する条例

この一部改正は、七月分までは暫定的に賦課していたがこのたび所得割により賦課する税率が確定したのでこれを決定するためと、併せて所得税法の全文改正に伴い関連条文が整備されました。

(3)議案第三十号　鮫川村青年研修所条例

公共施設に関しては、それぞれ条例が制定されているが青年研修所条例がなかったので、地方自治法により制定されたものです。

(4)議案第三十一号　昭和四十一年度鮫川村一般会計補正予算（第一号）

この補正は、当初予算編成後、公民館建築、その他の国庫支出金等が確定したゝめの補正である（予算現額一億二千百十五万五千円）

(5)議案第三十二号　鮫川村公民館建築工事請負契約について。

鮫川村公民館は公会堂として大正時代に建設され永年村民集いの場として親しまれて来ましたが、このたび一、三三六万円で福島市の管野建設と請負契約が締結され、近代的な公民館ができることになりました。

(6)人権擁護委員候補者の推せんに対する意見について

このたび人権擁護委員であつた吉田義美氏が任期満了となつたゝめ、後任者として渡瀬字大戸中の小松七郎氏が推せんされることに決まりました。

(7)一般質問

（紙面の都合上質問事項のみ掲載いたします。）

十五番　金沢省三

◎農、林道等の維持管理について。

六番　大竹　茂

◎村税の賦課内容について

九番　湯座　伝

◎環境衛生の施策について

十二番　蛭田　正

◎有害鳥獣駆除対策について

第八回議会臨時会

第八回議会臨時会は全員出席のもとに七月二十一日に開会されました。付議事件は次のとおり。

(1)会期（一日間）

(2)議案第三十三号　昭和四十年度鮫川村国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定

原案どおり認定されました。

(3)議案第三十四号　併用林道協定について

これは先きに村道として認定した青生野地内の朝日山線の内一、四四〇米を棚倉営林署と併用林道として協定を行うものです。

(4)議案第三十五号　昭和四十一年度鮫川村一般会計補正予算（第二号）

このたびの補正は、役場前の自転車置場の設置及び有害獣駆除報償、村営東野牧野敷地料等の補正であります。

補正後の予算総額は一億二千二百四十九万九千円。

(5)推薦第一号　農業委員の推薦について。

指名推薦により、別掲のとおり三名が学識経験者として推せんされました。

各種事業視察

去る七月四日、五日の二日間に亘り、全議員参加のもとに村内の各種建設事業の視察を行いました。議員による視察は毎年行つておりますが、この視察は議会で議決した事件がどのように執行されているか、予算はどのように使われているか、又地域住民の要望を将来どのように反映すべきか等議会活動の一環として行われたものです。

先進農家の視察

青年学級（研修）生三十名は七月十一日に郡内のこんにやく、酪農、そ菜、水稲、養蚕、養鶏の先進地を視察しました。写真は塙町伊香地区で構造改善事業により区画整理され、一区画三〇アール（三反歩）になつた田に直播栽培された稲の生育状況の説明を受ける学級生。



（い）（け）（う）（と）

商業統計調査

七月は事業所統計調査が実施され各事業所の方々のご協力を得ましたがこれに続き「商業統計調査」が八月一日より始ります。

この調査は二年に一度実施するもので、今回はその八回目となり、商業（卸売業小売業）を営んでいる事業所をもれなく調査し、商業活動の状況を明かにし、行政資料経済資料として、広く利用出来る統計を作成することを目的としています。

言うまでもなく統計調査は統計法により税務資料に利用することは固く禁じられ、又個人の秘密に関する事項についても固く保持されますので正確な統計が生れるようご協力をお願いします。

本調査の調査内容はおよそ次のようなものです。

1　商店の名称及び所在地
2　商店の開設年
3　売場面積
4　従業者数
5　月間商品販売額
6　年間商品販売額および商品手持額
7　修理料、サービス料、仲立手数料の収入額

等です。

（調査員及び調査区域）

一調査区　調査員、水野芳光

調査区域　大字西山、大字赤坂中野、大字赤坂中野の一部、大字赤坂東野の一部

二調査区　調査員、宗田貞治

調査区域　大字赤坂中野の一部、大字赤坂東野、大字石井草

三調査区　調査員、松本好雄

調査区域　大字富田、大字渡瀬、青生野

（総務課）

（ね）（ん）（き）（ん）

国民年金の中味が豊かになつた

▽こんど、国民年金法が改正になりました。

▽もらえる金があがり（約二・五倍）、中味が豊かになつてきました。

▽としをとつてからもらう年金が六万円（月五千円）にけがや病気のときにもらう年金も六万円（月五千円）に。

▽おかあさんと子どもだけの家庭でもらう年金が六万円（月五千円）に、（ただし子ども二人の場合、おばあさんと子どもの場合も同じ）、ひとりぼっちの子どもがもらう年金が三万円（月二千五百円）に。

▽また、納める金もすこし多く（約二倍）なりました。

四十二月一月分から、三十五才以上の人は月二百五十円に三十五才未満の人は月二百円になります。

（住民課）

忘れじの公会堂

福島市　中井恒雄

私なりの記憶をたどつて、鮫川在住時代の公会堂を思いおこしてみたい。私は昭和生れなので、それ以後のことはほとんど明確におぼえていると思う。

まず、色々な思い出の中に光徳兄や郵便局の鈴木一良さんや社屋商店の穂積義富さんたちが、公会堂に衝立（ついたて）一枚をならべただけの仮教室を作り、勉強にはげんでいることがあつた。多分この仮教室は、鮫川中学校新築の際の設署で、その他にも仮教室を長遠寺などにもあつてよく廻り道してのぞいたことをおぼえている。時は戦後のどさくさであり生徒の間には袋だたきというのが流行したのもこの頃であつたと思う。

その頃の公会堂は、板床になつていて、下足をぬぎ、それを持つて上つたもので屋内体育館のような造りであつた。だから村の色々な行事は勿論映画会やタバコ収納、マユ収納など、わりとべんりに使用されたものと思う。

タバコの収納期になれば早朝からリヤカーや牛車をこの公会堂のまわりにならべ、そしてマユ収納期になればまた数日間というものにぎわいをみせていた。

それにしても思い出に残るのは映画会で、床にすわり見るのは仲々味があり良いものだつた。毎週土曜日あたりにバスで運搬されてくる四角な大きな箱が二つ、そして映画技師である一人が同乗して来るのが二時頃、早速準備にかかり、映写幕をその都度舞台の天井からつるし、映写機を会場のうしろに配置し、そして音声なども調整して夜をまつつのであつた。

冬の頃であれば、五時頃になると暗くなるので、早仕事をすませて出掛けて来る農家の人たちが、広畑あたりを通る数をみて、人気の映画かどうかがわかつたものだ。

当時映画をなによりの楽しみとし、見続けると、次の映画も見たいという気持になつたものだ。毎回の映画銭もなかつたので、公会堂独特のガラス窓を利用して、のぞき見し、そして後で木戸番がいなくなつてから入つていく事をおぼえて、子供の悪知恵をはたらかしたものと今では感心している。当時の木戸番は、物語を一本も上映すれば引上げて行つたものだつたから。

入場すれば板床なので、下足は手に持つて行き、冬であれば座ぶとん持参で、オーバーなどにくるまつて、うるさい映写機の音を気にしながら一晩に四、五回はフイルムが切れるのをあてにし、良き時代の映画を楽しんだものと思う。

告知版

新しい母子補導員

任期満了により次の方々が委嘱され三年間、補導員の任にあたることになりました。

西野＝鈴木ミヨ、石井カヤ
西山＝高野ツヤ、緑川リウ
中野＝大楽ヨシ、鈴木貞子
東野＝宗田キン、森クノ
富田＝青戸テル、生田目チカ
渡瀬＝蛭田ケイ、芳賀キヨ
青生野＝長久保キミ、長井シチ

鮫高PTA役員表彰

このたび福島市で開かれた県高校PTA連合大会の席上で、東白川農商高校鮫川分校PTA役員として多年にわたり、同校発展のために尽された功績により本村東野の中川西光清氏、中野の中川西正司氏の両名が県高校PTA連合会長より表彰されました。

中野チーム優勝

社会人野球大会

村野球連盟主催、公民館後援による本年度第一回野球大会は、梅雨空でときどき小雨のちらつく十六、十七日の二日間にわたり村民運動場で開かれました。

大会には初参加の鮫川運送チームを加えて九チームが参加し、従来になく延長戦二試合と再試合が行なわれるなど見ごたえのある、力の入った好試合が展開されたがクジ運が良かったのと、近来になく好選手をそろえた中野チームが三年ぶりで優勝しました。

成績は次のとおりです。

一回戦
西山1——0西野
（延長10回サヨナラ勝）
鮫川運送10——3東石
役場0——0鮫高
（延長10回再試合）
教員6——3富田
中野4——1鮫川運送
鮫高2——1役場
準決勝
教員4——3西山
（延長9回サヨナラ勝）
中野7——0鮫高
決勝戦
中野4——0教員
（降雨激しく4回でコールドゲーム）

旧公民館を公売

公会堂以来五十余年の歴史をもつ公民館は老朽化のため改築されることになり解体処分された跡に新公民館が建築されることになりました

それで旧公民館建物の処分方法は村議会で公売と決定していましたが、部落公民館として利用したいとの要望もあつたので、一時公売を見あわせていたが希望する地区がないため、公売公告を行ない七月六日に公売を行ないました。

当日議長、教育委員長等立会の上競争入札が行われました。入札者は西山の関根仁市さん一人でしたが、二十万円で売却されました。



蒟蒻や馬鈴薯等を荒し廻つている山の悪玉（猪）は農業を営む人人から毛虫以上に嫌われていますが、村の有害鳥獣駆除隊員（隊長円井重雄氏隊員二〇名）により次々と捕獲され、四月から七月までに十一頭が捕獲されました。

この駆除隊は農作物に被害を加える鳥獣を捕えるため村の名ハンターを駆除隊員として村が委嘱しているものです。

（写真は大石草にて捕獲した百キログラムのものです）

鮫小チーム三連勝

村内の小学生を対象にして村教委と野球連盟が共催で行なう第三回少年球技大会は、七月二十一日に鮫小校庭で青生野小を除く全校が参加して開かれました。選手は梅雨あけの炎天下のもとで子どもらしいキビキビしたプレーで、観衆をわかせました。種目ごとの成績は次のとおりです。

ソフトボール（男子）
渡瀬小3——0富田小
鮫小A2——0西山小
西野小14——12鮫小B
鮫小A13——1渡瀬小
決勝戦
鮫小A3——0西野小

フットベースボール（女子）
富田小25——21鮫小A
西野小21——2渡瀬小
西山小15——7鮫小B
富田小26——15西野小
決勝戦
富田小9——7西山小

郵便料金と郵便物の種類体系等の改正について（二）



鮫川郵便局提供

郵政省では、七月一日から郵便料金と郵便物の種類体系等の改正を行い、諸施設を整備してご利用の皆さんに対するサービスの改善を図ることになりました。

改正の内容は次のとおりであらたな制度もあり、皆さんのご理解とご協力をお願いします。

一、料金の改正

チラシを各ご家庭にお配りしたのでこの点については省略します。

二、種類体系の改正

(1)第一種郵便物

現在では、第一種郵便物は「筆書した書状を内容とするもの」および「開封としないもの」であり、第五種郵便物は第一種から第四種までに該当しないものでありますが、改正後の第一種郵便物は従来の第五種郵便物を統合し、これまでの内容によつて区別することをやめ、形状によつて区別して、これに料金差を設けることとし、「定形郵便物」と「定形外郵便物」とに分けることとします。

「定形郵便物とは」

・次の条件をそなえるものをいいます。

ア　長さが一四センチから二三・五センチまで。
幅が九センチから一二センチまで。
厚さが一センチまででいちじるしい凹凸のないもの。
（ただし昭和四十三年十二月三十一日までは最少限は長さ一二センチ、幅七センチです。）

イ　重量が五〇グラムをこえないものであること。

ウ　あて名は八×四・五センチ以上の大きさに書き、この部分には、あて先と、普通手紙の表面に記載する習慣のある文字（親展、至急、机下等）以外記入してはいけないこと。

エ　全面を密着させれば小さな薄い紙およびシール程度のものをはりつけてもよい。

オ　あて名の全部または大部分をカナの活字で記載するときは縦、横それぞれ二・四ミリメートル以上（パイカ）の大きさで住所、氏名等は分け書きするか、またはアンダーラインをひくなど読みやすくしたものであること。

「定形外郵便物」とは

定形郵便物に該当しない第一種郵便物をいいます。

「父の日」をもつと大切に

父の日が六月の第三日曜日であることを知っているのは小中高生ならばいざ知らず、一般には余り多くないのではないかと思う。母の日がカーネーションを胸につけてもらい、手紙などを子どもからいただき、花やかに祝福されることを思うと父たる私もちと心細い。思うにこれらの原因は「オヤジは適当に自分で自分を祝っている」などということからだとすれば、世の父親なる者も一文句ありそうである。父は黙々として働らき一家の大黒柱として重責を果していることは、本当は知つていながら、これらのことについて「御苦労様、ありがとう」の気持を言い表せないのは、果して誰が悪いのであろうか、私の学校の子どもに聞いてみても「テレくさい」とか「言つてあげたいが機会がない」とか、「余り忙しくてつい言う暇がなかつた」とか答えているが、人生の〝けじめ〟としてこの日こそ意義深い日にしたいものである。都会並にネクタイを贈つたり、Yシャツを呈したりすることはない。物よりも心であると考えれば、父の後にある母の助言が大きく物を言うと思う。今日は我が身ということばの如く、母の一言によつて一家中が父に感謝をする「父の日」を私は大事にしてほしいとねがう、せめて、心なりの感謝の日を。

西野小学校長　古川一郎

おめでた

六月
木之根　林　顕一　父勉
遠ケ竜　森　明美　〃　静

おくやみ

六月
新宿　湯座　ハマ82　トワ
荻ノ沢　関根　ナヨ78　稔
鍬木田　松本　ヤイ86　太一
青生野　吉成　一世0　四郎

あとがき

ながかつた梅雨も明けてようやく夏らしい季節になり、不快指数も一〇〇％以上に感じられる毎日ですが、低温で成育が心配されていた水稲にとつては、干天の慈雨にもひとしいでしょう。心配なのは病害の発生ですが防除に万全を期したいものです。

公会堂の資料収集をお願いしたところ多くの貴重な資料をお寄せ頂き、本号の紙面をかざることができましたことを厚く御礼申し上げます。

公民館建築も急ピッチで進んでいますので、年内には新しい装いで皆様方にお目にかかることができるでしょう。

（鈴木　一）